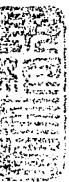


伊勢舟神蹟考證書



291  
31

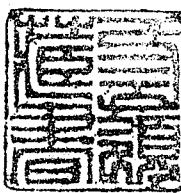
2



中根七郎  
藏

原本ノ初音山縣立圖書館蔵本ニテ山田正氏自筆、寫本ト見  
ニシテ濃淡形ナリ

昭和八年三月十一日



中根 遼葦識

291  
31  
1

伊勢冉尊神蹟考證書

全



年賀典尊神蹟考證書編纂題言

御善川是才年賀典尊御典尊の二柱の天神の勲命を以て斯  
の國造り國名成し給ひて次第天照大神を始め奉り古また  
此神達が生之給ひてはれど亦作り隆起て之上天壤と共に  
千萬ノ千萬ノ神代かう。此大神名分萬事不亘りて幸る。  
おやあく又言の壁三つ極み沙々詫ひ止の限りありと云々力  
了國々和諧く生じ葉ひ忽たたか我の國乃民俗にて終へ。牛  
の二柱の神靈加被也。

おひき前シテ草木神祖神私坐せと年賀典尊の巡行因又、  
諸神國主十齋中祀より先達。抑て天神地祇を更かり等不思  
議者人合子十總へ。神祭祀ら古傳從之。此之古今歷期  
の大典不二。古來化然と年賀典尊又は立神之一之齋中

祀り詔和諸社の今不無ヰタメシ何事かや有むニシカキ  
御古たりの考謨以てヨリかあつて一歳く持身、身手一類云初了  
可也不亦不外と、既正之、一く紀年ノ熊野小佐ノ常不有写封  
かの若の書手替て神公志也御舊蹟を仰せ奉るト、傳書之出  
されば如上日本紀神代卷不正一く言也哉有り未て著ト、  
也不無ルル如限ナ前本を斯ミ明治の御子少遇也御子一くナシ  
烏其一所の書居シテ、かく年久一く唯而御其事不仕セリ  
已可儘不生不革ケレ了書の程不切ヒ奉テ少室神宮の程不以  
ヒ怖志又何日ノ内地麻吉ノ制衣行モルタリム日御少ヒテ  
カ萬事外國人等の見下向リトカ少々ヒト論シニシテ、  
アツク諸國人ヨリ如何不そつ可也、其限リカラカヒ御其  
思ム是ヲ有スヘシ、移千湯ナシくナリ

さと斯く思ひ起一てハ往不止む一くヨリあらうねて向志心  
かの友人ヨリ書リて年月の之キを移ソイ前不乍禁御草の神  
跡考證書一巻ヲ得志

九五人たゞの綱川を、海土其出は驚夫の神也、行かず附  
かの遠津祖を祀りテ、も若志遼り古の事不孝のモリ上  
謂ナリル也ことの以テヒサレ一トナリ也前不ト云一ト  
可如く御禁典尊ハ天照皇大神の妣尊ト、一ト昂古天皇の始祖  
不坐古天皇天下の神也、祭官志たまひ一徳ての御祖神不坐  
一主セハ、一日一早く其御蹟をせす顯モ一齋中祀らんこと  
き也、ノヤ、ハ昔か國土不對、古テ遠津祖不坐テ、既當子の知  
ニテ、孝の本筋不叶ふか也トおは事かくシ能不因志の  
人を不代リテ遣て革シテ祀志者

元詠山歌紀行圖東京華都那馬村

山用正直祥

此考證書を撰寫為めの文草ハ左小稿ナホ

無量ノ有馬村かニ伊那那美大神の舊居址ハ日本紀十額既た  
之事人皆の御事ニ可也一可也之現今の竹林不在ノ如何か了  
ナホ亦がモ可後靈火人不治キテ之の實況を所向キ也と年未  
思ひ立ツト、有經和<sup>ナ</sup>リ作今因止ノ帝院を尼コト古典の趣  
ハ更カリ田園故傳ナム今之現象也、遂ヨ限かく以ヒ精々既  
明ルハリハ以ヒノ言キわナリニ志あられ有馬那美大神  
之神。天照皇大神の舊居址小河一未暫間ナキノ又神の舊名  
を以考夫ニ顯ヒ一また此詩社の守り神を可得矣古大河

トノ思ひたりトキ以テ下牛の御宿趾小河トリ詩社ト達られ  
ル事のみ除キ少少不亦力主是の由實不以ヒカ御其モの  
ハ

明治廿七年十月十五日

井上 肇國

伊勢丹尊、御陵、若許ノ恭業詳悉ニシテ後許亦具備セリト  
云フ、シ蓋シ太古ニハ出雲ト紀伊トニ連接ハシ事蹟多カリ  
ン事ハ先哲既ニ論及ヤシアリキ之ニ據リニ思ヘリ素盡鳴  
尊ヲ主神ト崇祀セシ無量坐神社、迎村ニ伊勢丹尊、御陵ア  
ニコトハ事事ニ依リ古學ニ従レニ能シ察レサツ可レ但不上  
古ニ山陵ニ神ナニ神社ヲ設ケ例ナレ故ニ奉、考、陵也トレ  
ア祭典、ナリトノ別ニ彦日碑社ヲ達ニ詩書、將トレシレ

ミーナンハレ又タ古事記ニ年禁冉尊ヲ出雲國ト伯耆國ト、  
其比婆・山ニ墓ルト三工タルニヨリ近來神道家・族ニ始  
ヒ波・山ニ墓リクル後ニ解作・無望・陵墓セリエ・ナレ  
シト云・リ今度不レニ瓦ニ希國上古・習俗・神代以来、  
事蹟・古考ヨリヒ傳セシモ・ナルカ故・古考記ノ異ニニ區  
區・傳ヘタリシト・日本代・神代差・一書曰トニ引ク・諸  
多ナア以テ知ラル既ニ古百年以上・人・著レタ・宋日本  
紀ニテ著・古考ト比婆山ト・而後シ新セテ神道不測本社某宗  
修同名異・所注又異是猶黄帝之冢也・不空・云・ハカ妙・漫  
ニ古考・折衷シテ勝券不可ヤニ於不然・其後國學慶ニ興リ  
名匠輩出スル・及・熊野坐辟社・主神・幸宜等尊タニ事明  
確タル上ノ日本紀・文・往々年禁冉尊・而陵ヲ有馬村ナリ

花・富ト定ム可ナ・適當ナリト信セラム・セ

明治廿七年九月廿一日

文学博士・中村清矩

江外人・山田君正末テ其著不詳・年禁冉尊・陵廟考ラニナレ  
キヨリ既讀耳三始メ由リ本ニ至ルエテ向ア葬子守ノ釋不都據  
一脉在ラ舊ニスル・未ク嘗ト好ト稱セズ・アラ不雖些神  
代一脉・延矣タリ千百年・後・生レテ千百年・前・明ニ万  
古ソニア確ト謂ト可ナンヤ但古事記託ノクノ跡碑ノ存スル  
事有司者ニア敷蓋シテ可也之ヲ保有シテ可也之ニ一墓ニ株  
數不可ナリセ古人謂リスヤ萬信好古ニ右タ何ヲ謂リシ  
候ニ其考ア逐ニ蓋シ修造追遠ハ是・・山田君正ノ志・存スル  
以斯山田君正ト志ラ同フアム者・務ムル所類

明治廿七年十一月十日

副島種臣

鹿仔園無窮有馬村小古了伊某無守の湯舊號の者裡一間一局  
コ木大く畫ナリて遠懶御寺ノセナレ但此の地を以て尊勝を望  
基セラモ草陵と云者事ハ字跡上以テ、一三セナル也正當小  
之を為詩曰讀かるゝ明ニ可れり而く係存の法ハ二室九  
人事ハ第ナニ立希望吉

明治廿七年九月三十日

本居宣長

紀伊國南年甚都有馬村ナム伊某無尊、帝旧蹟、事ハ日本書  
記卷、一、一書ニ載マシ曰、伊某無尊生火碑時被灼而禪道  
者矣故基於紀年國無窮之有馬村焉土俗奉火神之碑者花時亦

以花祭又用鼓吹幡旗歌舞而紫ト見エテ伊某無尊、御魂ヲ土  
人、紫リシ旧蹟、ナルトハ判然タリ然ルア支・基、宇ノ用キ  
タルニ據リテ人身ノ云々レバ、祥ノ而体ヨキ、也ニ埋、奉  
レリト此一說、如ナヨリ、乃ハ法、經、ツクノ事、古事記上差  
ナル其事祥避之解禁御美神者基出雲國主伯耆國守比婆之山  
セトアルニ同シストニ、伊某無尊、火碑ノ生ニセセルニヨ  
リナレハ御尊体、牛國主、留、ムニカサニコトハ云々是  
ケルコトナリ其後其御魂ア紫ヲニカ為メニ國人者ナ時々祭  
典ヲ行ヒシ靈ノ以テ基リ奉リシ靈ト云々傳、タルカ故ニ基  
ル字ハ御平タルモナリ極ムニ上古年祭無尊ヲ祀ト奉リ  
ア波之浦ト云々傳ニマノ、御美神者御波天利和耶ナシニ紫リ

「ラン斯、云々故に用詠吹幡旗鼓舞而祭矣トアシニ從、」  
+

伊勢舟岡ノ死、而因シ詔レタスヘル神ニテニセハ其祭ト要  
ナムテ空リヘリシ事アリトニヒ傳ニキ牛一珠ニ紀伊國南  
牟婁郡ノ有馬村、紫陽ハ東モ古キ清アレク牛也ニ御社ヲ建  
テ齋ナ代ラシヘハ此ルヘキコトツ寛ニシナリ

明治廿七年十一月廿七日

星川真頬

懸巻セ思キ仰仰那美大神の御遺蹟ノ經年間の歴史又有馬の  
村ナ在クニシカセヒ書紀の神代卷不眞可かれハ今更不言學  
庄一ノトアラモホニ也ルと星形リ物莫リシハ古典不記述た  
る上世ヲ遺跡ハ尋ね一ヤ便ニ角不無くあり矣た例ロシカ

ラナレハ此ニ失ミ如何ナキも勇氣セカクニ思ひ極ひあり  
シト今聞ニ弗許を冗れハ歴史其地不仕ニケサ古トノ事地  
を過るセマレタス人の歴古又曰神ナリロ碑碑頭羽賀等ナ  
至フナリを參政トニシカテ機セ草木草木ト總合算計カクニナ  
ヒナタコモナヨアラシテ鳥居地ニシミハキ此トモナキ  
神ノ古事記ノ序ナリニ畫祥形ノ祖たりと有ミ其ニ畫オ一村  
カリハ國トナ高野セ也繪五カトニシ事ナリ有ル一キ由カキ  
神不生吉ニ書紀不墓ヨシ書記ナリ信哉不至クノ御年齡が  
ト云云難くホトナ起リテ足カリシ事高野焉ナニノ是カキ  
事ナカモカカ左未ト古ナキ斯カ大神の神迹ナ御座跡の斯く  
ト明ニ小傳ナリ萬アカメ明治の御史小毛リ再び世ナ呈  
ナル経ミハ成リたスハ是シハん決意を小縁のことナアカ

宝物是ヨリ一卷かへり かへり

大師代おおしろ おもてなしを以て之紀のくふせんを以てやむかわれ木を絶

明治廿七年十一月廿七日

吉田 廣丈

伴英丹尊佛陵考證一卷

和歌山縣人山田正氏來訪シテ此ノ書ヲ示サル乃ハ承リテ鑒  
次第序文ノ如ク考證精確又ク繁縝トケンナレ且ウ其主旨神蹟  
ヲ承也ニ保存シテ書簡ヲ天下ニ知ラシムケニ在、事亦タ甚  
タ嘉賞スヘシ唯タ書紀、記ノ如ク一ツ、無寧是ニ蓋シ奉ルト云  
○古事記載ノ如ク所、出雲・伯耆・鳥取・北陸山ニトリト  
ニハ舍人親王ノ撰一ツ太宰麻呂朝臣、述共、勅撰ニ俟ル  
トキ、其趣レカ是ニシテ勅レカホトニニ主、アハ寛、謹

方今遠ニ歸立シ難キモ、アリ因ニ一言ヲ加ヘリヘシ還附  
トニテ

明治廿七年十一月廿一日

文部省大典教科書局

伊奘冉尊神續、考證書續言

謹ア格スレニ、伊奘冉尊、神續ア哉スルモ、記紀、二典、各其所載ア異ニシ、出雲國ト伯耆國トノ場ナル比於、山ニ在リトナシ一、紀伊國熊野ノ有馬村ト、不是ニ於アカ世ノ識者往々論議スル所トリ逃リト難矣兩地皆、正史ノ記テクマニシア共ニ世上ノ神續タルコト又タ何、疑ハシ小民等章、生レテ熊野一地ニ往スルヤ久シ古來保存石ル所、事續遺傳不ル所、口碑久々聞見シテ失ハズ之ヲ以テ古典ノ明記不ル所ニ對照スルニ更ニ啟發ケル所頗ル多シ孰牛秉盡鳴尊常ニ批專ア追慕セラッハ、志念絶ニルコト無シ給ニ妣尊、因ニ林シ、古典皆十之ヲ明證ス而ア顧ルニ素盞鳴尊、出雲國ニ坐シテ櫛帝氣野命ト稱、後千吉カ熊野ニ入、家津美御子

大神ト妣尊ノ神靈ト共ニ一木ノ熊野一地ニ鎮坐トクキ現ニ國  
幣中社タル熊野坐神社即牛是也斯事蹟ニ由リテ之ヲ推究  
ニレハ赤子素盞鳴尊ハ早シ已ニ吉註歸有馬村ノ以ニ妣尊ノ  
神蹟ト確記セテレタルヲ證スル是ラン是レ甚矣モ明確ト  
ル後憑ヲ得ルニ、也其他各種ノ縁由等舉ヘテ考證書中ニ列  
カケミ、皆地方ノ舊記及ヒ事蹟、家モ明確ナルニヨリ採  
擇シ佗ノ公刊ノ史籍已ニ世ノ之論ヲ經シニノハ之ヲ證ス故  
ニ文辞極メア野ナリト雖ニ彼所其間聯スル所ア查究スレハ  
神縁、幽遠フリ萬世、下苟ナ殊ニノ充々誠ルト得ヘキ也誰  
レカ謂ア神代一事ハ遙也矣ト夫然ラソ粵ニ考證書一冊ヲ  
編シ謹ニ一言ヲ弁スル耳

考證目次

- 一 伊勢母尊ノ神蹟
- 一 雄野有馬村
- 一 熊野，密
- 一 祭典
- 一 全崇拝
- 一 御章
- 一 伊勢母尊ノ神靈本宮<sub>神社</sub>熊野坐ハ遷坐
- 一家津美術子大神素盞鳴尊出雲國ヨリ熊野本宮ハ遷坐
- 一 泉津神父他諸神，鎮坐
- 一 地方，遺事及ヒ碑

考證

○伊勢典尊、神蹟

謹ニ古典ニ 案スルニ 伊勢典尊、神蹟ヲ載スルモ、  
左、如シ

日本書記神代卷一書曰伊勢典尊生父神時被灼而神退去矣故  
葬於紀伊國熊野之有馬村焉土俗祭神之魂者有時亦以花紫  
又用鼓吹幡旗歌舞而祭矣

以上書記、明記スル所、神蹟、位地及口祭典葬之  
地方、旧記若リ、事蹟口碑ニ對照シ各條項ヲ分  
ナニ細ニ之ヲ查究スルト左、如シ

○熊野有馬村

三重縣紀伊國南牟婁郡有井村大字有馬、往古ニ在

ア、有馬村ト稱シ中古池邊村ト改メ近世又タ旧名  
ニ後シ明治廿二年町村制度実施、後ヨリ有馬村大  
字有馬ト稱不以下旧記ニ微シテ其地及ニ沿革、  
記不

有馬村後山前山海高十四百三十五石八斗九升二合、民四、吉久家敷  
跡百五拾軒

牛本地境近廿二十五町、志原地境近三十八十五十町、金  
山地境近二十里半、人生屋地境近八十町、但シ曰有馬奥、  
有馬山寄ト分レタリ

以上  
西元十九年古写本

有馬莊總ア十三ヶ村

村名神代紀ニ熊野有馬ト見エテ東云古十名ナリ、有馬ノ姓近  
給名ニシテ此村慶長ノ頃、池邊村ト云々慶名、獨今、名

トナク近世又タ口與山崎、三箇村ニ別ツ有馬、事蹟見ハル  
ルニ、東云古シ書記、載ハシ所下文花、萬、條、諱ナリ  
以上  
續往德名土記

### ○花、窓

諸日記ニ由ハ、應永、頃有馬和泉守忠永ナリニ、  
ア、其地ニ居テ附近、諸村ノ領主子孫永シ世襲セ  
リ、有馬氏、即ち、遺跡今尚ナリ地ニ存在シ  
曰記、證ス、所左、如ニ

### 花、窓

有馬、海岸ニ花、窓ト稱ス、巨巖ト、世俗古ヨリ  
伊勢母尊、佛陵ナリト唱ハ之ヲ崇敬奉祀ス、久  
シ又タ其傍ニ王子、窓ナレタリ斯遇夷禪神ノ祀、  
曰記、證ス、所左、如ニ

有

馬村：在、

岩、高廿八間山、尾等地ヨリ拾間に上、五尺四方程、石、  
洞ト、地、洞、佛、一、申傳、人通リ、成ツサル所也瑞  
羅十間、二間、三尺、鳥居、卯辰、方、海ナリ、地  
岩ヨリ、浪除、三十間、申、不、害、申、大般若、云、  
峰、申、不、害、申、大般若、云、  
般若、讀、俗、佛、大般若、云、  
内裏ヨリ、法連、緋、錦、繡、金銀、花、造、榮、申修今、其  
真、絛、之、蒙、縫、ア、榮、也、  
以上前九章事

花、高、境、内、東西、六十五間、南北、百十間、

住、禁、生、

拜殿、鳥居

村、北、吉、丁、許、往、還、側、海、邊、一、石、巖、壁、高、廿、七、間

南、向、ヘソ、其、正、面、方、三、間、許、壇、作、玉、壇、周、ラ、レ、拜  
所、設、日本、書、記、一、書、日、云、  
中陰

古、事、記、出、雲、國、伯、耆、國、一、境、ノ、比、婆、山、  
「異、說、ナ、リ、云、」

花、高、名、增、基、法、師、記、行、岩、見、エ、タ、リ、花、以、テ、榮、リ、  
リ、詔、レ、ル、名、ナ、シ、下、ヨ、リ、拾、向、許、上、方、五、尺、許、リ、洞、ト、土  
人、歩、可、ラ、空、ト、云、フ

社、高、側、セ、八、間、許、リ、陽、ニ、薪、セ、岩、ア、高、廿、四、間、半、足、  
王、子、窟、ニ、云、ノ、斯、遇、夷、智、神、靈、ヲ、祀、ル、社、神、住、禁、丹、尊、佛、子  
ノ、ノ、王、子、窟、ナ、シ、名、ヨ、聖、窟、ト、云、ノ、  
立、復、御、前

享、保、八、卯、年、岩、山、ヨ、浪、除、寺、普、請、神、前、瑞、雖、御、普、請、被、尊、桂、步

支、化、年、中、有、馬、村、神、宣、及、村、史、ノ、招、請、諸、廟、ノ、上、申、壽、左、如、シ

建之、花、窟王子、窟御記シ御建社為遊假在兩社、熊

野根井、言、由、申傳工候

花、窟 建碑 高四尺三寸 中表尺立寸

王子、窟 建碑 橋三尺

右西建碑、文字、紀伊蕃主、手書、係ノト云、

地方、口碑、由、花、窟、靈場、參拜不、貴賤、然、該造碑前、號是二、通行セシ由又毎

年西建碑、焉離、更、作、此用具、在廟地和歌山

ヨリ特、陸路遙、行スルニ、也、云、又以、往時、

官民、尊崇他、起エイツ、謹不可シ

花、窟、誅、々々、國歌、諸書、擬見スルニ、ラ集繫シ

スニテ左、錄、

久安直首

大坂御門右大臣

紀のくわやあらはき、うかんがふかたまわらすかーとおもひ

完俊朝臣

いの生徒が、おおむねが、おりよし、もあまき、うつ、ほ、一、かふ

信人不知

そゆう勢、おおむねが、おりよし、おまかげ、うつ、ほ、一、かふ

公能胡坐

お、ゆあおおむねが、おりよし、おまかげ、うつ、ほ、一、かふ

増草清師

本多吉宗と、おはさ、おはさ、おはさ、おはさ、おはさ、おはさ、おはさ、おはさ

西行詠師

おはさ、おはさ、おはさ、おはさ、おはさ、おはさ、おはさ、おはさ、おはさ

左京大夫充滿

うがおかくに生れたりおうかーおれおおわがおまつりの命の者ひせが

左京守保

うかごとおもむかれてせ重い筆ひまわらか筆やまくじ  
く生身の花のうへがきほびてとおめの。一百長

絶えぬやさがはでやアひく縁ゆふの本せぬるかよ

古

○花、産祭典

每歲二月二日十月二日祭典ヲ行フ今尚古典中、  
車不外、田舎ヲ存シ村民注連縄ヲ拂々繩ノ月々  
懸、形ナツニ、三流ヲ造リ之ヲ垂ニ又稱之、花ヲ  
奉供ス其祝詞文左ノ如シ

掛差ニ農文任禁舟尊止拂名替申季中略依之弓矢花乃舊只茎

奉臣某等并遠祖平祖主上之令仕給布仁有花時以花乞紫  
官亦用鼓吹幡旗鼓鼙而繁以依制例而八十日後在葬主今日八  
生日乃是日仁生昔年弱肩仁太襟取拂持焉麻清高被歌比部  
舞比部作臣仕奉私宿一起酒手齋上萬石齋腰拂並信齋舞備奉  
里繩以多幡復半作至時注連縄引榮之此縣ノ刀稱男女仁至高  
正今年十月二日仁諸參出末吉皇神乃大前半種乃花如櫻山  
備奉天照

上產田神社奉經長考案中古未奉主所祝詞文

祭日、毎年二月二日十月二日丙辰十九夏文記ニ昔ハ祭日ニ  
紅一纏錦一幡金鏡ニ一花ヲ造、散シ火、紫ト云シテアリ  
土人ニ、錦一幡ハ毎年朝廷ヨリ献シ給ヘシ何レ一年、  
カ熊野川流水ニテ其幡ヲ精ニタル御舟被レシカラ土人紫日

至リ佛ニヤシノベナシ縷ニテ幡、形ヲ作リシトツ。其後錦  
旗、エト縁ニテ縷フ用ニ今名井在ナリ無野川相須村、近  
錦旗、旗、流レテ其石ニカヽリ。今土入、用ニ所ハ縷シ編レ  
テ幡三流、一形ヲ造リ幡、下ニ各種、花ヲ挂リ又扇ヲ挂ヒツ  
ケニ長キ縷フ以ニ窓、上ヨリ前ナツ松、樹ニ高掛ヘ三流  
梅、前ニ御ル詠舞、無ケトキ以不祭又角鼓吹幡旗、  
云故宮、存スルトキ珍ラシキ奉事ト云可シ夫木松或俊荷臣  
、花祭、詠又ト久安百首、詠ニ錦、旗、事トド、事、見エサレ  
於祭、名古ノヨリ世ニ聞エタルコト紀、可シ又祭日トテ  
ストニ土人奉時々花ヲ奉リテ祈念スト云、  
京都ヨリ高家寺尊末ア、持参ハ錦、細形ナルモノニニ岩ヨ  
リ松、梢、引波ニ御神事ア、一年高祭席下向、第本吉川船

ニ正サレ御下リ被成シニ珠、外ナツ大水ニテ相破レ端物、  
卷、珠失不燃レキ細形、錦、木中、石ニ鑿ヒアリシサ主人  
駆セテ承様ケ斯ナ有馬、持參被成シ、其石ニ銷巻石リテ今  
ニ本吉、川端ニ丁リ、以上有馬入野西家、由美書生二第

絹巻石、川端、アリ長ナ十七間半廻、四向川合村ヨリ三町、

所ニアリ、監新宣辨御覧記

以上旧記、詳スル所、由ル、今其始年、年代ヲ詳  
ニスケ能、不ト雖、往時、在ラ、謂之ヨリ厚、  
善祀マラレタケト明白ナリ中古、至テモ地方、領  
改維新、後ハ只々地方、人民、ニ僅ニ日浅ヲ固守  
シ以ニ今日、至ル、社殿廢滅シ、其跡ヲダモ見ル

由々、臺灣祭甚古ト狐狸、祟トケ島國土創造  
天葉始祖、神蹟ニシテ今斯、却シ大和民族クル  
ニ、奈何、慨歎、堪ニカラシ哉青シ未リテ泣血再

梓

壹田神社

於一邑、西數町、シニ小字奥有馬、地、壹田神社  
アツ田記、載スル所左、如シ

奥有馬村

產田神社 境内肉三町半 禁殺生

御神

伊勢與尊社 伊勢諸尊社

村中ニアリ口奥有馬山崎、產土神ナリ生人傳ニテ言、伊勢  
丹尊御地ニテ斯通宗智神ナニ産ミ給、故ニ產田ト名クト云中

昭  
神功皇后應神天皇ヲ奉ニ給、ノ地ヲ一彌ト云フカヒシ後  
地ニ樟木シカ為、ノ、御社、社ヲ建テ伊勢與尊ト斯通宗智  
神トア繁レハナラン、伊勢諸尊、是神ナリ、後ニ此ヘア繁レ  
ルナリ上古ノ復本氏代ノ神官ニ、社領、地ヲ奉リシニ中古  
以來別ノ神主ヲ置テ神事ヲ掌、シテ文正、頃復本氏斯シテ  
官社ニ盡、兵火ニ罹リ古詛寺傳ヲサル事惜ニキシ社領ノ  
均成、時ニアリ猶未田地五町、アリシニ津野氏、時权公セラ  
ケ賜頃津野右近、愁訴シテ高五石ヲ長サレ寶文年中花、密  
ト共、發生並札ヲ給、ノ繁日、毎年正月十月隣鄉、貴賤群  
集シテ參詣ス、翌年正月

赦生禁札

年臺部壹田境内東南北限道西限溝事

古社前々之限界精不外所停止殺生不可有違死者也依仰如

件

元禄八年十一月日

久野和泉守在押  
三浦長門守在押

牛堂郡花當境内東南限小徑西限檜董峰北麓山林禁之事

古社大野ノ十六限界精不外所停止殺生不可有違死者也依仰如

件

元禄八年十一月日

久野和泉守在押

有馬村彦田神社の御事御尋之趣致示相候件口等社ノ日本書  
無神化遷奉ノ件禁井尊生大神時被灼而神退去矣故空於紀年  
國無跡之有馬村馬王俗祭社之魂者不祭亦以不祭又用舞吹  
幡旗歌舞而祭矣如此相見之候、尤尤縁起正く並々知り

止む事か本事又候也但近年無事新言ノ攝社末社より申候  
併シ於古書ノ是不無見意之候、一一併併シ當時ノ御定ナリ  
頗リ修候ノ候、今思來共ノ詳簡の不及處不候也古ノ御先日  
既不令口演修、とて獨任神望粗書記申進候以上

十二月十七日

森吉良政

本居洋齊直長

猶々總体神社御境内の樹木を伐リ泥草ノ神ノ御山、叶御牛  
子、子事、猪、牛、不宜候不候、其是亦當時ノ御許立の儀也  
恐甚多く思考共其是被子ノ事限不て、無之候、以上此事處

紫典

本社、紫典ノ毎年例日、本社ニ之ヲ執行スルノ事  
ナラズ新言神社無坐連玉ノ社、テ古來達拜、本社

ノ蓋ニ熊野速玉男命、伴磐舟尊、崩去、除生レバ  
シ、端子シニ一候。由ル歟

正月元日午刻、塙田神社達拜所獻供奉幣祝詞神樂社僧芻之  
十一月十五日夜子刻、於產田<sup>ノ</sup>古<sup>ノ</sup>達拜所<sup>ノ</sup>益紫表再經社僧芻之

以上信守傳仰土記 薩吉祥社年中行事

○瑞幸

往時歷朝、聖駕本宮新宮那晩、三社、瑞幸<sup>ト</sup>リ  
シ<sup>ト</sup>、實<sup>ト</sup>、數次<sup>ト</sup>リシ<sup>ト</sup>塙田神社花、實<sup>ト</sup>、瑞幸、  
ト<sup>ト</sup>、田記牛唯<sup>ト</sup>左、一頂<sup>ト</sup>レ<sup>ト</sup>見<sup>ル</sup>

崇徳天皇長承元<sup>ノ</sup>于年三月產田御幸 <sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>熊野速玉<sup>ノ</sup>御幸  
伊勢舟尊、神輿有馬<sup>ヨリ</sup>本宮、遷坐<sup>本宮</sup>、地古昔<sup>ハ</sup>大  
<sup>御トモ云々今</sup>東牟婁郡<sup>本宮村</sup> <sup>又音無</sup>  
即<sup>ト</sup>熊野坐<sup>御社</sup>、所在地ナリ

本宮即<sup>ト</sup>熊野坐神社、事<sup>ヲ</sup>考ルニ家津美御子大神  
素盞鳴尊<sup>ト</sup>御古熊野新宮、東阿須夜、社<sup>ノ</sup>御津<sup>ト</sup>解<sup>メ</sup>  
ノ北<sup>ト</sup>リ石測、谷ヨリ本宮<sup>ニ</sup>遷坐<sup>下文<sup>ト</sup>アリキ又</sup>  
御尊<sup>ト</sup>御禁舟尊<sup>ト</sup>有馬村ヨリ奉迎シ家津美御子大神  
熊野速玉男命熊野丈須夜命ト合祀<sup>シ</sup>本宮<sup>ニ</sup>社<sup>ト</sup>  
古來<sup>ニ</sup>ヲ上ニ四社<sup>ト</sup>奉<sup>メ</sup>御<sup>シ</sup>守<sup>メ</sup>之<sup>ヲ</sup>崇敬セリ牛<sup>ノ</sup>神  
社<sup>ト</sup>十二社<sup>ヲ</sup>祀<sup>リ</sup>四<sup>ノ</sup>御禁舟尊<sup>ト</sup>有馬村ヨリ遷坐<sup>ト</sup>事<sup>ニ</sup>  
ト<sup>ト</sup>田記事蹟<sup>有</sup>、<sup>ト</sup>口碑<sup>ト</sup>遺傳<sup>ト</sup>求<sup>ル</sup>明確疑フ可  
ラサク也

崇禪天皇六十<sup>ノ</sup>五<sup>ノ</sup>于年熊野有馬村ヨリ青無郎<sup>ト</sup>遷坐不<sup>レ</sup>  
本宮也 <sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>熊野年號<sup>ト</sup>萬世

有馬ミ<sup>ト</sup>本宮<sup>ト</sup>舊請致シ本宮ニ十二社始<sup>リ</sup>申シニ<sup>ト</sup>產田<sup>ノ</sup>本

古、奥、院ト申傳へ候

三山彦達言、一時、有馬、產田先初、疑、始ト申傳へ候本言  
始、修テ後、有馬、产家トナル

以上有馬久良西、由末書

各地、口碑、傳ルモノ、中家モ著明ナシモノヲ

考ヘ左、如シ

南三寺郡、至多志村、神輿、有馬ヨリ奉言、遷幸、除中  
少時駐在、地ナリ神輿、ヲ御シタルヨリ村名ヲ至多志ト  
名ナシト云

今新神、木村、同時、樹木ヲ供祭シテ神輿、奉供ヤシ  
ニ因マト云

右至多志村、木ノ二村、有馬ヨリ奉言、至ル、路  
傍ナリ紀伊傳名土記ニミ有馬村、坤父生屋村ニ至

リ神、木村ヲ歴ケテ本宮往還、傳馬道トスト云ヘ

ノ  
神輿達言、當時有馬ヨリ供奉、人民牛車未本宮、也  
止リ仕シテ姓ナ有馬ト更ノ稱シタルモノ、數家アリシモ  
今、其家絶ニシ無シ

本宮即ニ熊野坐神社、私參ニ今尚、造花及口幡旗、革ヲ  
用シヘ皆、牛車古有馬ヨリ移傳シタルノ遺或ナリトニ「  
本吉河邊ニ古未廻形ト稱シ常、熊野川通行、若形業ヲ  
独占シ他人、干渉シ許サ、ル事業業アリキ傳ヘ云フ姓  
古遷全、時仲家ノ舟楫神輿、ヲ奉轎セシ、餘次ニ由ルモ  
ナリ、舟業モ推新以後、始エテ無シ

以上、熊野、故老、常、青シテシテ口碑、傳ルモ

ナリ又以テ其事ヲ親知ルニシラン

伊勢舟尊、神典、禮坐、事一以上、旧記及口碑等ニ  
様ニ已ニ明アリ蓋シ素盞鳴尊宇大神、常ニ妣尊ヲ  
追慕セラル、ヨリ遂下文皆重複候、出雲國ヨリ熊野起、入リ終、  
本宮、地ニ轉坐ト本宮、御坐ト共、  
神殿ヲ全スルニ至レントモノハ誠ニ至大、神經ニ周  
ラサルハ無シ然ル、中古以後新吉那智習ト共、熊野  
三山ト稱シ伊勢舟尊及他、神祇ヲモ合祀シ或ハ佛  
法隆藍、時代ニ至リテハ十二社權現ト唱ルカ如キ  
上下共ニ章修母会ノ嘉祝、禮賜セラレ千古、畫掛  
タル花、充庭在田神社、如ナハ帝ニ禮賜聞ニル、  
獨り熊野三山本宮新吉那智、稱呼世ニ著明ナルニ

至レリ

本宮、神社魚吹坐神社鑑神、家津美晴子 石瀬谷ヨリ達

坐

崇神天皇六十五年子年熊野權現本宮出現

以上熊野年分記古事記

以上、事實、就十尚も長寬元年藤原永萬ノ勘文、  
引載ノトヽ所ナシ此點万ムニ左、文アリ

鷦西、日子、山、峰、天降リ給フ次、五年ヲ後ニ戊午、年  
伊豫國石鉢、峰、渡、給ニ次、六年ヲ往テ甲子、年務磐國  
(通)、蓬萊羽ノ峯、渡、給ニ次、六年ヲ經キ庚午、年三月廿三  
日紀年癸卯漏即卯御山、西、海、北、岸、玉那木ノ瀬、上  
杉、持、本、渡、給ニ次、五十七年ヲ遇キ庚午、年三月  
廿三日無附新吉、南神余、岸ニ天降リ給フ次、六十一年庚

午ノ年新言ノ東ノ阿須磐ノ社、北石瀬ノ谷ノ朝霧清ノ靜ノ春  
ト始メ結連玉家津美御子ト申ニ三井ノ社也次ニ十三年ヲ過  
キテ壬午ノ年本宮大湯原一位、木、三本、末ニ三枚、月形  
天降リ治フ

以上御室跡縁記

前記ニ所謂ル家津美御子即テ現今國幣牛社トメ  
本宮ニ坐ス熊野坐神社、紫津ニシテ素戔鳴尊ノ一  
ノ尊稱タリ。此神出雲國ニ在シアリ。模倣熊野命ト云  
云ヘリ。請フ其ノ謹ア舉ケン

伊勢那波ノ日真名子加天吕伎熊野大神様御氣野命

以上御室跡縁記

神代ニ素戔鳴尊、御子五十粩命岐大屋津姬木稚ヲ木ナ布キ  
治ヘルアツア紀伊國ニ疫ニ奉リシ事ア思フ。素戔鳴尊速玉

命樟日命ア奉リ遷リ坐セルモ同シ御毛ノコトニレニ深キ  
由縁アケコトナラン素戔鳴尊、御名ノ棉御氣野命ト稱、奉  
レキ。棉ノ奇畫ニテ稱言ナリ。御木野ノ御木野、其ニシテ大帝  
身一時毛ヲ後キテ移ケ、木ノ生ニ給ヒ才八十木稚ヲ播生レ  
ル山ノ隱舞屏(ヌマ)トニ木野(ヌ)トニ云ヘルヨリ熊野  
大神奇畫御木野人命ト稱、御キレルナクヘレ御子五十粩命シ  
叶國ニ渡シ奉リ又其御身ニ叶熊野ニ遷リ坐マル。其尊ラ木ノ守  
リ管ヘク御毛ナムハク思ウハレリ。牛熊野ニテ家津美御子神  
ト稱、奉レハ奇畫御木野ト稱、タリ。向シ木津持御子神  
、意ナル。レ  
以上御室跡縁記

家津美御子大神即ニ素戔鳴尊ノ出雲國ヨリシテ44  
無所ニ遷坐アリシト之ヲ前記ニ幾シニ已ニ明背

ナリ而メ是レ壹ニ御木ノサリ給フノミ、神意ノコ  
ン哉

恭シ松ノヘニ御神都ニ御尊ヲ追慕セラレ給ニ根、  
國ニ入リ繪ニシテハ古典ノ聲カニ此也是ニ由テ之  
ヲ觀ルニ一方ニハ有馬若、玄宮ノ神蹟ヲ距シ僅ニ數  
星十ニ石淵谷ニ鎮坐アリ、於ニ奉宮ニ運リ一再未永、  
此尊ト同地ニ鎮坐アリ、至ソシニノノ是レ昂ナニ  
神カ首肯惟一ノ神意、出タハ事ニレニ向ラ古典、  
所載「相表裏ルニ観ル」法メ一朝偶然、事ニ非  
ルヲ信スル也

神代、事或ハ遠也矣ト云ト雖ナ被狀、同佯ノ詳  
ニシ其緣由ア查覈スレハ數千載、下苟ホ莫事蹟ナ

登場スル大ク難キニ非ム可シ以上記ノリ所ノ素盞  
鳴尊、事ナ以下ニ掲グリ所、諸頂トヲ保ヤテニア  
查究スレハ即キ熊野有馬村ノ如尊ノ靈域タルヲ後  
世、推定シ候タクシテ素盞鳴尊ノ神意早シ已ニ認  
識セラレタツモ亦タ疑ヒトカラン

○泉津神及他ノ諸神ノ鎮坐

託紀、二典、具ニ載スル所ノ泉津神及伴接冉尊崩去  
、降出現ノ諸神皆ノ有馬若クハ其附近ノ社ニ鎮坐  
アルヲ見ルニ亦メ一様由アルニ因ニナルリ無ケン

熊野速玉神社

素神 泉津事解男ニ命

土坂子守神社

答御植山姬命

答子守神社

紫神 菊理姬命

吉戸神社

紫神 泉津道守命

以上、五神ノ御歌山縣東牟婁郡新宮町ニ在不有馬

ヲ船ル凡シ五里

深釜神社

紫神 因美女神

御船村社

紫神 啼澤女神

以上、二神ノ三重縣南牟婁郡御船村ニ在不有馬

距レ凡四里半

金山神社

紫神 金山彦命

三重縣南牟婁郡金山村ニ在不有馬ヲ船ル凡シ一里  
土俗傳ア云フ竹神ノ御符尊ノ神像ニ於テヨリ出  
現アリテ是地ニ鎮坐ス仍テ古昔ツオキノ言ト傳

月初一社

紫神 許傳ヤシモノ

渡其木之間云々

紫神 許傳ヤシモノ

津、森社

津、森ノ靈ニ道奈ナラニ日本紀神代卷曰時泉道守  
者白云云々

以上、二社ノ有馬村ノ森、側ニ在リ

御平神社

紫神 菊理姬命

三重縣南牟婁郡上川村ニ在リ本吉神社、末社、一

ナク

甲神社

案件泉津道守命

同縣同郡川合村，在リ本宮神社，末社一一ナリ  
土俗傳テ云々以上、ニ神ノ元ト有馬一地、在シ伊  
其丹尊、神興本吉、遷坐、時隨ヲ本宮ニ移リ後又  
ク今ノ代ニ遷坐スト云々

以上記スル所、泉津神及ヒ伊其丹尊廟古一際出現  
一神一事ハ記紀、ニ典ニ詳ナリ今ニア體ス

○宇摩郡名及熊野地名

景行天皇五十九年熊野、行幸牛車、地ノ三ノ上無野言代記高本  
前記ニ由レハ成務天皇五年ニ山河ノ界シ國郡國縣  
ヲタタレシヨリ以前已ニ車書ノ名稱アリタルモ、  
也

中地上古ノ熊野ト云フ今ニ至リテモ是ヲ通稱ト不字學、尼  
ノ初ノテ齊明紀更ニ萬葉集ニ出ツ其名義ハ鑑ノ義ニシテ海  
津萬金アルヨリノ稱ナランカ又ハ溫暖ノ義ニシテ其ノ地、  
暖ナルヨリ起レル稱ナラン歟萬古ノ外ケ盡ニ熊野、  
地ニシテ其地廣大ニシテ一邦域ナヤリ其名義熊々隔ニテ  
古其累ノ義ナリ坐紀伊國土地

熊野、名草タクナシロホトニテ、其ニシテ古詞ニ  
所謂ル「牛カ飼シ蚕ノ繭ニミア」、如ク蠶居、義タル  
カ如シト雖キ古來又タ一說ヲ為スニノアリ頃ケ安  
當、說ニ庶矣カラシ歟之ヲ左ニ錄ス  
熊ト一月ノ限山、隈若ノ々繪風、上ニ於テくまど  
コト云々カ如ク安其丹尊、神續ニ延因シ幽明ノ限

界ノ形姿シタルニナリ云々

又云、熊ニ即ニ神、兼ナリ古事記牛其例多シ神稱訓  
ニクニ高祖ト云々、仍テ熊野トハ神靈鎮坐、兼ナ  
リト云々

以上、諸説皆、妙尊、神蹟ヲ形姿シタルニ庶第  
言ニ偶然、名義、非リノ信スル也

○地方ノ遺事及口碑、遺傳

有馬地方古來、習俗トシテ燒雨、時ニ當リ各家ヨ  
リ米ヲ許ア出シ之フ、塙田社前ニ集メ、神官祈禱、後  
ニキ米ヲ散ス之ヲモラヒオモトニテ松木ノニ塙  
田神社ハ、伊勢舟尊ノ御子ヲ生ミ於ニミ地ナリト言  
フ、古傳、因リ塙屋ニ居神遷吉ノ後ヲナカニ奉歟

舟ノ伊勢舟尊、鎮坐アリ地ナリニヨリ泉津神ノ饗  
和麿藉スル、言ニ出テ往古伊勢諸尊、薄千桃子等  
ヲ授シ給ヘ、古傳ニ述因スル云、ナランカ  
散失ノ事、大殿參祝詞及上道饗祭祭詞中ニ聲ナリ  
今ニテ略不

有馬地方、俗松明ヲ祀ル、一包火ヲ用シテ嚴禁  
シ火ノ二点以上トナリ之ヲムニヤエマヘト唱ヘ日  
本紀神代卷曰今世人祀ニ火云々

又ニ常ニ松ノ木ナ忌ム、地方古來、習俗ナリ日本  
絶神代卷曰夜忌拂松牛其儀也云々  
有馬、地域徃古ヨリ松樹自生シテ夜ノ尊ニ某聖十  
株、ナルヲ祀ラス今代ニ至、人亦タ之ヲ培養増殖セ

「地方：流行病アリ時、産田神社ヨリ左、即チ神  
符ヲ各家ニ配布」

意富加年部美命 衣已喜ノ木枝小木錦ノ御子也

桃子、東、記紀二典、詳、意富加年部美命、  
名布記紀、出、今ニテ暨、

以上、諸頂、住集、丹草、神蹟、所隨、自ラ古典、所  
載ト等合ス、觀ニテ、真ニ奇縁、ナクト言ハサル  
ヲ得サム也

某年春、新宮、南端ヨリ南、某年春、牛、牛（有馬花）  
ニ至、安瀬七里、間ヲ餘、牛、七里、浦瀬又浦瀬瀬  
ト、又有馬、近、山林ヲ総稱シテ、牛山ト云、有  
馬地方、方言ナリ、又古昔、有馬花、落、前向海上

ア總稱ニテ、布前十三、

以上、唱呼、則テ、神蹟附近、地ニ對ス、尊崇、壹  
思ア發表スルモノ、シレヤ即ナリ、柳モ有馬花、落、  
神蹟、古典已ニテ、明示、ニ地方、習俗、能ノ性  
古、遺傳、失ハズ無、小民ト、難、尊崇、稱呼、常  
ニ口、絕々不加、ノ、行ア花、落、靈跡、拜、ノ、  
ニ及テ、巨巖、考、靈、何人ト、難、一見、以テ神代、神蹟  
タルヲ感得ス、レニ、祭、アラン

以上、旧記、畫ノル所、碑書蹟、遺存不、少、ア、  
ア、畫合シ、一、查、靈考察スル、有馬花、落、日本紀  
ニ載スル所、伊勢、丹草、神蹟、タリヤ、秋毫、靈跡、  
密、可カヌ、又、考、祀典、如キニ、性古ニ、在ア、刻

任之ノ管司セラレ降ニ赤門政治、世ニ至ニテ地方  
一領主麥舟崇敬、道ヲ盡クシ随ニ社殿、結構奉供  
、豊富亦タ知ル可ナ也仍ニ謹ニ御見ア所ニ以テ參  
觀ニ資ス





8 9 10 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03957 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9

8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03957 1 2 3 4 5 6 7 8 9 (60) 1 2 3 4 5 6 7 8 9

